

ロジスティクス

変革の
リーダー

ユニゾーン（富山市）は、大きな産業部品から小さな電子機器部品までメッキ加工を行っている。現在、無電解メッキや硬質クロムメッキ、各種電気メッキなど48種類の表面処理ができる。メッキはモノづくりの川下の仕事だ。前倒しで作り置きすることができず、納期までの余裕も少ない。顧客が必要とする時が納期となる。

5年ほど前から、北陸地域に密着した「24時間体制」の仕組みを構築した。最短納期のためにネットワークを14エリアに分け、14台のトラックを活用して搬送する。工場から顧客に直接トラックを走らせる「搬送営業」だ。営業便は午前、午後の1日2便体制。午前便で預かった製品は午後からラインに投入、翌日の午前便で納品する。



午後便で預かった製品は翌日朝からラインに投入して午後便で納品する。そして納品しながら、新しい製品を預かる。

工場は緊急案件を処理できるように、生産体制に少し余裕を持たせている。現場の社員は持ち込まれる製品の種類や量によって柔軟に対応できるように育ててきた。これにより毎日定期に製品を引き取り、メッキ処理して納品まで24時間以内に行える体制を実現した。これは約30%の顧客が利用している。

集配はプロのドライバーでは

地域密着、納品24時間以内

「コンビニ」の理念脈々と

ユニゾーン
専務

梅田 雄一朗氏

うめだ・ゆういちろう
98年（平10）関東学院大経
卒、01年荏原ユーザライト
（現JCU）入社、03年ユ
ニゾーン入社、07年専務。
富山県出身、39歳。

なく、メッキ技術者が担当。現場で勉強した社員が顧客を訪問する。毎回決まった製品が出てくるとはならない。経験したことがない材料など難しそうな加工はその場で、携帯電話を使い技術担当に相談する。納期や見積もりなど、常に即決対応を心掛け、納期を絶対を守ることで信用を高めてきた。北陸地域以外の広域営業にも力を入れたい。

創業者の梅田秀雄（現会長）が、約20年前に「コンビニエンス・ファクトリー」を目指すと書いた。その理念は脈々と生き続けている。今後も顧客の求める高品質や短納期に添えていく。（富山支局長・渡辺大介）